

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	千葉県香取市与倉869-1		
自己評価作成日	平成28年12月14日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは家庭的な雰囲気作りを心掛けています。ご家族の来訪が多く、来訪時には職員も加わり居室やフロアにて談笑したり、家族みずいらずで自室にてお食事を楽しんだりしています。また、家族が読書や編み物をして入居者とのゆったりとした時間を過ごされたりなど、ご家庭に居るような雰囲気の施設となっています。

デイサービス合同の行事や、地元の方のボランティア慰問も多く地元の方との交流も多く、なかなか外出レクなどに参加する事が難しい体調の入居者様にも、季節感を感じて頂けるようなイベントが年間を通して行われています。

グループホームの看護師に加え、デイサービスの常勤看護師にも協力が得られている為、体調の変化に対し早めの対応が行え、入居者様やご家族にも安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目となる1階建て2ユニットのホームで、広い敷地にサ高住、デイサービスが併設されている。これら施設が緊密に連携することでシームレスなサービスが提供されている。施設全体で職員が切磋琢磨する環境や、互助会などの福利厚生の実践が職員のモチベーションの向上につながり、アンケートでも非常に高い評価が得られている。今年2名の百寿表彰者が出たこともむべなるかなである。人材育成に力を入れており、後継者の展望も開けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念I					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃のミーティングや申し送りの場で、“利用者が住み慣れた地域で生活しているという実感とはどういう事か”を気付きなどから話し合い共有している。	家族の訪問を促す接遇、季節感に配慮した、なじみの場所への遠足、地元でとれた豊富な食材を使ったヘルシーな食事など、理念を実践に直結させた支援に注力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に加入しており、運営推進会議では近隣の行政協力委員の参加協力も得られている。ボランティアの訪問や近所の知人の方の面会もあり、日常的に地域との交流を行っている。	地元の萌陽高校からのボランティアや伝統的な節分神楽の慰問を受けるなど、地域とのつながりを大切にしながら年間行事計画を立て実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習や地元の高校生のボランティア受け入れ、運営推進会議などを通して、認知症の方について理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で市役所代表や行政協力委員、家族からご意見を頂き、サービス向上に向け努力している。	もともと農業の盛んな地域であり、農繁期に配慮して運営推進会議は年3回開催している。民生委員や香取市高齢者福祉課の職員の参加がある。ホームの実情を丁寧に説明し支援に繋げている。	運営推進会議は5月と12月では少し開きすぎ、状況の変化に対応できない恐れがある。お盆期間などを有効に活用して開催できないか検討願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会の参加や地域のケアマネ連絡会の研修に進んで参加したり、高齢者福祉課に運営推進会議に参加して頂いたり、良い協力関係を保てるよう、努力している。	市役所と旧栗源町、香取支所、小見川支所の15のグループホームで構成するグループホーム連絡会に参加し、情報交換や課題の相談を行い行政との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内部、外部の研修へ参加し、正しく理解出来るよう、全職員が学んでおり、実践に生かしている。	身体拘束については外部研修などに参加し、身体だけでなく、心の拘束につながることを全職員で理解しており、特別な場合で、かつ家族の了解を得た場合を除いて行わない支援に努めている。	ご家族提案の足首バンドは、車椅子の、スリッパ型足台として実用新案でも出せると面白いですね。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳をもって利用者に接する事が出来る様、全職員が施設内部または外部の研修で学んでおり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内部、外部の研修に参加し、理解を深める様努力し、家族からも質問があれば説明している。以前は成年後見人制度を利用されている方も居た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書や情報開示の説明を行い、納得頂けるよう十分説明に努めている。 苦情箱の設置をしている事も説明し、不安を取り除いて頂けるよう、努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や外部評価機関のアンケート結果を利用し収集した意見・要望を、事業所内ミーティングやグループホーム連絡会、運営推進会議にて外部へ公表している。改善点についてはミーティングを設け、運営に反映できるよう努めている。	長年介護に情熱をもって取り組んできた施設長ではあるが、外部評価の結果も冷静に受け止め運営推進会議で家族にも公表し、家族からの意見と合わせて改善点を見つけ出そうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で意見や提案を受けたり、直接管理者や代表者へ意見を言える体制をとっており、後日ミーティングにて内容を検討し、反映できるよう努めている。	理念は利用者だけでなく、職員に対する行動指針でもある。職員は施設長に敬意を表しながらも自由に意見を述べることのできる家庭的な雰囲気醸成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が日々の業務の様子を評価し、勤務状況や資格に応じた給与を支給している。 また、内部、外部の研修参加時については、研修費を支給し、職員のスキルアップ支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加については、常に奨励しており、参加できる体制を整えている。国家資格の受験についても勉強できる環境を提供したり応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケアマネ連絡会、同業者との勉強会を利用し、情報交換や交流を促進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して過ごせるようになるまで、思いをくみ取り、傾聴しながら寄り添い生活していく事で、信頼関係を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などの際、本人の思いをご家族にも伝えたりしながら、家族の希望も踏まえ、十分な話し合いを行っている。ご家族にも安心して頂けるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いの汲み取りや、家族と十分話し合いを通して必要な支援を見極めている。必要な方には、事業所内の作業療法士によるリハビリテーションなどのサービスも提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを念頭におき利用者同士が出来ることは行い、お互いに支え合えるような場の設定や環境を整え、生活の質が向上し生活を共にする者同士の関係が築ける様、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力のもと、一時帰宅や家族との外食等を行っている。家族のみでは介助が難しい場合には職員が同行するなど、家族と本人の絆を大切にさせて頂ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、兄弟などの墓参りや外出時には、自宅や生家の周辺を通ったり、併設の事業所に通っている知人が面会に来た際には、自室でゆっくりと過ごせる様、環境を整え支援に努めている。	近所の方や知人等来訪時にはお茶を供して、本人とゆっくり寛いで貰うよう対応している。墓参りに同行したり、地元で伝わる元朝参り等、幼少時から馴染んでいる行事の話を聴いたり、近くの神社へお参りしたり支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合ったり、会話がし易い状況を作ったり、孤立しない様、職員からもさりげなく関わりを持ち支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時などには時々お見舞いに伺ったり、必要に応じて相談に応じるなど、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分な話し合いや、これまで暮らし方を尊重し、個々にあった関わりの中から、本人本位に過ぎて頂けるよう職員で十分検討し、支援につなげている。	入居時に本人・家族から意向等を聴いているが、十分な把握には幾分時間を要することもある。十分に本人とコミュニケーションをとることを常に心がけ会話の中から一つ二つと掬い取り、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との話し合いや日常の会話の中から、これまでの生活を把握する様に努め、尊重しつつ支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	危険のないよう、十分な見守りをしながら、心身や出来る事を評価し、いち早く変化に気付け対応できるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が遠慮する中から、意見やアイデアを引き出す努力をし、ミーティングなどでモニタリングについても開示し、十分に検討し介護計画に反映する様努めている。	ケース記録や業務日誌、居室担当者の意見、毎月開催の全員会議での意見交換等と本人・家族の希望を基にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個別のケース記録を活用し、業務日誌については意見やアイデアその他、申し送り気づきなどを自由に記載し、職員間の情報共有に活用しながら、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望、思いに寄り添える様、通院外出支援を行ったり、必要に応じてリハビリテーションや、看護師によるバイタルチェックも提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元高校生ボランティアや歌謡、園児による慰問での交流で歌を歌ったり、またお化粧して頂くことで、興味関心が見られ、楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や、希望されるかかりつけ医に受診をし、時間外でも電話にて指示を仰げる、または往診が受けられる様、関係を築きながら早めに医療が受けられるように対応している。	現在、利用者全員が入居前からのかかりつけ医の受診継続を希望しており、通院には家族が同行している。都合によりが家族が同行出来ない時は、職員が対応し医師に本人の状態を説明するとともに医師からの説明を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師、併設のデイサービスの常勤看護師に日頃の情報を伝え、いつでも相談にのって貰える環境となっており、必要であれば直ちに適切な介護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等で情報提供をし、直接十分な説明を行っている。また退院時にはかかりつけ医にサマリー他、医療情報を提供頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でかかりつけ医と家族、管理者による話し合いをしているが、重度化した際には再度家族の思い等を汲み取り、事業所として出来ることを説明しながら、医師、看護師、介護職と共に連携し取り組んでいる。	入居時に、事業所方針として入院の状態にしなければ希望により終末期にもホームで過ごしていただけることを説明している。早い段階で医師と家族、管理者による話し合い持ち、家族の思いの再確認と協力のもと、医師、看護師、介護職が連携し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、緊急時対応マニュアルがある。急変時対応に備えて、外部研修または内部研修でも消防士を講師に迎え研修を行ったり、消防署の蘇生法講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防士立ち会いの避難訓練を実施している。火災の他、地震想定、夜間想定等の訓練も利用者職員共に参加し、避難できる方法を身に付ける努力をしている。また地域との協力体制作りを心掛けている。	年1回消防士立ち会いの避難訓練と、火災・地震想定・夜間想定等年8回の自主訓練を利用者も参加し実施している。初期消火や出火場所を変えるなど毎回習得に努めている。また地域との協力体制作りにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は内部・外部のプライバシー保護についての研修に進んで参加し、人格を尊重する事とプライバシーを損ねない態度や声掛けに充分注意し対応している。	利用者に合わせこの地方の方言を使う時も礼を失することの無い様、また親しみを込めた言葉遣いにするなどして、毎日を気持ち良く過ごして頂けるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の様子や、表現、会話の中から思いや希望を汲み取れる様、穏やかな態度、姿勢で働き掛け接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態を把握したうえで寄り添う事を大切に、本人の生活ペースに配慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にはブラシや好みの化粧品などを配置し、居室から出る時には鏡をみて身だしなみを整えられる環境を作ったり、髪型や白髪染め等、美容室にて好みを聞いたり、衣服についても好みの服を着ておしゃれ出来る様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みのメニューを交代で取り入れられたり、食材の皮むきや味見をして頂き、危険が無ければさりげなく見守ったり、一緒にお茶入れと準備、片付けをしている。	下拵えや準備等出来る方は食事作りに参加している。地元の旬の野菜をふんだんに使った食事は皆の楽しみになっている。当初体調不良気味の方が、毎日のバランスの取れた食事により改善が図られる等、医食同源が実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し三食のうち偏りがあっても、一日の栄養バランスや量が確保できる様、好みの食事を提供し配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎の予防にもなる事を認識し、入れ歯の方でも、一人ひとりに合わせ丁寧に歯茎のマッサージや磨き残しの無い様、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握し、重度の方でもトイレでの排泄が気持ちの良いことと感じて頂ける様配慮しながら、時には職員が二人で介助し支援を行っている。	車いすの方にも様子を見てトイレへ誘導し、二人介助体制で一人が抱えもう一人がズボン等の上げ下げを介助して、夜間オムツの方も含め、日中は殆どの方がトイレで排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による二次的疾患についても理解し、医師へ相談したり、予防できる食材についても取り入れ、水分補給も心掛け個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人の職員が入浴から着脱まで関わり、個人浴で家庭的な雰囲気の中、個々に沿った支援をしている。希望があればデイサービスの大浴場にて、温泉気分が入浴が楽しめる様、配慮している。	週2~3回入浴支援をしている。着脱から洗身まで一対一で行っており、入浴でリラックスした本人とコミュニケーションを図る良い機会になっている。希望により併設のデイサービスの大浴場でも入浴が楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	質の良い睡眠が取れる様、居室内の温度や寝具に配慮したり、日常の活動についても運動や散歩、入浴など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	掛かりつけ医や、薬剤師より、十分な説明を受け、全職員で共有し、薬の内容に変更があった場合には観察を十分に行い、服薬の支援している。事故を防ぐ為にも一包化した内服の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好に応じて、外出やカラオケ等のレクリエーションや忘年会では飲酒をしたり、屋外の喫煙所にて喫煙を楽しむ利用者さまも居る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外食や外出は自由に出来る様、支援している。家族だけでは行けない様な場所でも、職員が付き添う事で外出できる様に支援し、楽しんで頂いている。	散歩を兼ねて近くのコンビニまで行ったり、お墓参りや自宅に一時帰宅する、家族と外食する等いつでも自由に外出出来るよう支援している。諏訪神社の大祭見学や遠足などを年間行事計画に位置付け、遠足は家族の協力を得て楽しい思い出作りにも繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段からお財布を持っている方もおり、希望があれば買い物の際にお財布から支払が出来るよう支援している。また遠足でも好きなお土産を購入する際、自ら支払える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話の使用を支援している。ゆっくりと会話ができる様、子機を用意するなど、環境を整備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが、穏やかにくつろぐ事が出来る様、室温やテレビの音量にも配慮し、季節の壁面装飾やツリー、鏡もち季節の草花を花びんに生けたり、季節感を取り入れる様、努力している。	居間兼通路の壁面には利用者の作品や行事の写真等がたくさん飾られている。アンケート結果からも気軽に訪ねて行きやすいとの評価が高く家族や友人等、毎日何組かの来訪者があり、居間はいつも和やかな雰囲気包まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が談笑できるソファやお気に入りの場所やいすでくつろげる空間づくりを心掛けている。居室で独りになれたり、気の合う方と過ごせる様、お茶を用意したり配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、使い慣れた物を自由にお持ち頂き、本人がそれらを遣いやすい様な設置を工夫している。趣味の物を貼ったり家族の写真を貼り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室には筆筒等の使い慣れた物を持ち込み、好みに配置している。趣味の作品を並べたり家族の写真等を貼ったりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー歩行や、車椅子の自走がしやすい環境を調整する事で、利用者の能力が安全に発揮された生活を送り易くなっている。		